

# 雅樂

# 樂

舞  
樂

親子教室

第十二回 雅樂フェスティバル 演目

平調

皇饗急

越殿樂

残樂三返

迦陵頻

右方拔頭  
蝴蝶



一宮市民会館

○入場無料

特定非営利活動法人

旭雅樂会



令和5年12月9日(土)

○開演13:30 (開場13:00)

- ・一宮市芸術文化協会 第78回一宮芸術祭参加
- ・令和5年度文化庁伝統文化親子教室事業



文化庁

TEL 0586-64-9963 FAX 0586-64-9748

# 第12回 雅楽フェスティバル演目紹介

## 管弦

ひょうじょう  
平調 おうじょうきゅう  
皇麿急

平調の律で7世紀頃にできた四箇之大曲（しかのたいきょく）の一つ。古くは序・破・急から成り舞楽があったが、舞楽は廃絶され現在明治撰定譜には管絃として急の楽章（早四拍子）のみが伝えられている。曲名は黄麿谷という中国の地名を指す。唐の中宗の時代に黄麿谷で戦死した將軍の王孝傑の忠義ぶりをたたえて、帝がこの曲を作ったと伝えられている。

えてんらく のこりがくさんべん  
越殿樂 残樂三返

江戸時代に書かれた『楽家録』によると盤渉調の曲としており、また中国前漢の皇帝文帝の作曲、「一説」に高祖劉邦の軍師張良の作であると伝え、もとは平調の曲であったと記されている。また日本で作られた曲ともいわれ、作曲については定かではない。書物として『扶桑略記』康保3年（966年）10月7日の条には、宮中で公卿たちが退出するとき「越殿樂」が奏されたと記されている。

また、残樂三返という演奏法は、管絃の演奏を楽しむ特殊演奏法で、平安時代の宮中の御遊びで行わされていた。特に箏の演奏技巧を披露するもので、最後まで残る筆策はあくまでも箏の演奏を助けるためのものと『楽家録』に記されている。

## 舞楽

かりょうびん  
迦陵頻

天平八年（736年）林邑の僧仏哲により伝えられた「林邑八楽」（りんゆうはちがく）の一つ。迦陵頻伽（かりょうびんが）は極楽浄土に住むとされる靈鳥の名前。この楽曲では、祇園精舎に極楽浄土から迦陵頻伽が来て舞い遊んでいる様子を、妙音天（才天）が樂舞に仕立て阿難尊者（あなんそんじや）に伝えたという伝説を基に作られた舞曲

こちよう  
胡蝶

『迦陵頻』の番舞（つがいまい）の関係にある舞曲。延喜6年（906）に高麗樂の様式を基に日本で作られる。迦陵頻と同様に、子どもが舞うために作られた童舞。曲名に「蝶」と入る様に、小さな子供たちが蝶々の羽を付け可愛らしく舞う舞曲。作曲は藤原忠房、舞を式部卿敦実親王が振り付けた。

うほう  
右方 ばとう  
抜頭

「林邑八楽」（りんゆうはちがく）の一つ。激しい感情に身を駆られ、髪を振り乱しながら激情を表す舞と伝えている。由緒には諸説あり、西方の胡（こ）国の人人が猛獸父を殺され、憤怒して仇を討つさまを表したという説。または鎌倉時代の雅楽書『教訓抄』には、唐のある皇后が嫉妬に狂い座敷牢から鬼となって踊り出たさまを表したと記されている。太食調の唐樂であり、右方は拍子が独特なのが特徴。八多羅（やたら）拍子といい、二拍子・三拍子・二拍子・三拍子と混合拍子。混合拍子によりリズム取りが難しく、演奏が無茶苦茶になる為「やたらめったら」の語源となる。

ちょうげいし  
長慶子

源博雅（みなもとのひろまさ）の作曲といわれる太食調の曲で、舞はなく「ちょうげし」とも読む。古くより参集者が退場する音楽「退出音声（まかでおんじょう）」として用いられ、現在でも舞楽会の締めくくりの曲として演奏されるのが慣例とされている。

ご参加・ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます